

第27回 BELCA 賞ロングライフ部門受賞建築物選考評

ホテルニューグランド本館

所在地：神奈川県横浜市中区山下町
10番地

竣工年：1927年（昭和2年）

用途：ホテル

建物所有者：横浜市、
（株）ホテル、ニューグランド

設計者：渡邊仁（新築）、
清水建設（株）（改修）

施工者：合資会社清水組
〔現 清水建設（株）〕（新築）、
清水建設（株）（改修）

維持管理者：（株）ホテル、ニューグランド



ホテルニューグランドは、1923年（大正12年）の関東大震災後の1927年（昭和2年）に外国人向けホテルとして竣工した。1994年時点の改修に対して第5回BELCA賞ベストリフォーム部門を受賞しているが、この建物は洋風建築の中に東洋的な装飾や手法を取り入れた2階ロビーと宴会場の内装が大きな特徴であり、今回はその内装の保存改修が対象のロングライフ部門での受賞である。「横浜市歴史を生かしたまちづくり要綱」にもとづく保全活用計画では、正面外観と中央階段、2階ロビー・宴会場、屋上看板が歴史的価値を形成しているものとして、建築を活用しながら保全する対象範囲となっている。創建当初、横浜市が建設を主導し、民間にホテル運営を委ねた経緯から、現在でも本館建物は市と株式会社ホテル、ニューグランドの共有資産となっており、保全継承活動は市との協議にもとづいて実施されるという。

2014年と2016年の耐震補強工事では竣工時の不足図面について、4年間にわたる建物全体の調査により現況図を復元し、保存部分の外観を変えないよう耐震補強工事を実施している。追加的な耐震補強工事により、緊急安全確認大規模建築物等の認定も受け、建物の安全性を向上させている。

今回の保存改修のハイライトは、本館2階ロビーとレインボーボールルームの左官仕上げ大規模天井の耐震対策改修である。二部屋ともラスモル下地に漆喰仕上と石膏レリーフで構成された印象的な造形を持つ装飾吊り天井である。レインボーボールルームの天井改修では、コアサンプリングとX線透過撮影による天井材の調査と3Dスキャンによる天井形状の数値化を事前に行っている。面白いのは、天井裏の吊り材の状況を狭い曲面天井の天井裏で調査するために、リモコン戦車模型の上部を取り外し、そこにスキャナーと全方位カメラと照明を取り付け、天井裏を走行させて調査していることである。それらにより天井の形状と下地の3次元データ化を行ったうえで、入念に耐震計画を立て、さらに実大振動実験で確認したうえで施工を実施をしている。また、天井面の石膏レリーフは既存レリーフを活かし取りし、ステンレス棒による継ぎ補強とガラス繊維の裏打ちなどで補修され、再取り付けされている。これらの作業は難工事であり、周到な調査と準備と卓越した職人技とともに、点群測量や遠隔計測技術、BIMの活用など新しい施工技術との両立により成立している。

ホテルニューグランドは戦後、進駐軍の接收期間に手が入られ、創建当時の姿とは異なる部分もある。レインボーボールルームも創建当時はあったであろうシャンデリアが、映画上映を行うために取り外され、その時にアール形状の梁型にそったレインボー照明が取り付けられたようだ。保存改修を行う場合、建物のどの時点で復元するかが問題になるが、ここでは、市民の記憶に残っている今回の改修直前の姿をあえて将来にむけて残す改修を行なったという。

建物の歴史的価値を少しでも残して保存しようという姿勢が強く感じられた。関係者が粘り強く尽力し、歴史的価値を残すことを実践し、所有者がこれを守り残していこうとする思いが伝わってくる建物である。